

# 悲い恋の物語に自身を重ね アレクサンダー・ フョードル・ツェムリンスキイ

Alexander von Zemlinsky (1871-1942)

ツェムリンスキイは28歳の時、自作のオペラの初演が成功して注目されるようになります。初演の指揮を担ったのは、当時指揮者としても名を馳せていた先輩作曲家マーラー。そのころ、ツェムリンスキイには恋する人がいました。アルマ・シントラー。彼の作曲の弟子でした。彼女との結婚を望んだものの、アルマは結局ツェムリンスキイの元を去り、マーラーと結婚してしまうのです。《交響詩「人魚姫」》が作曲されたのは、それから間もなくのこと。王子と結ばれることのなかった人魚姫の物語に、ツェムリンスキイは自身の恋の結末を重ね合わせたのでした。

A  
2025 DECEMBER  
[第2051回]

マーラー夫妻の陰で涙する  
ツェムリンスキイ。  
声と恋を失い、  
王子のために身を投げ打った人魚姫には  
救いが訪れますか、  
彼はその物語に慰めを求めたのかもしれません



©IKE